（別紙4（2））

事業所名　アミライフ・桜ヶ丘

目標達成計画

作成日：　令和　４　年　２　月　９　日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用開始時のアセスメントシートに、本人の趣味意向、生活歴の詳細、自宅での様子などの情報が足りない。シートの様式を工夫するとともに、よりその人らしさを工夫する取り組みを期待する。書面は、家族に記入してもらえる様式もあれば良いと思われる。	アセスメントシートの様式を見直し、記入する際に、自然と、より詳細な情報の記入が出来るよう導く、新たな様式への変更を行なう。家族様に記入してもらえる様式の追加も考える。	生活歴の欄においては、趣味・生活スタイル・習慣・社会活動・精神面など、個別の記入項目を設け、記入する際に考えをまとめやすくする。現在の生活状況など、今後の生活に直結する情報についても、記入項目、記入スペースを増やすことにより、目標や課題・問題点が浮かび上がりやすく、解決策を見つけやすい様式とする。	3ヶ月
2	33	事業所の重度化対応指針を作成し、契約時に本人や家族に説明を行ない、話し合いの機会を重ね、安心して最期を迎えられる取り組みを期待する。	重度化対応指針を作成し、契約時の説明・話し合いを行ない、安心して最期を迎えられるような提案を行なう。	「看取り介護に関する指針」を作成し、安心して最期を迎えられるよう、事業所・本人・家族様間での共通理解をより深める事が出来るにようにする。	3ヶ月
3	54	入居者のほとんどの居室は、備え付けのベッドだけで、入居者が使い慣れた家具などが、持ち込まれていないので、その人らしさを感じられない部屋となっている。本人の生活歴を把握し、使い慣れた生活用品の持ち込みを推奨し、その人らしさのある空間づくりの支援を期待する。	入居者それぞれが愛着を持ち、入居者それぞれの個性が感じられる、そのような部屋づくりを目指し、入居者が使い慣れた生活用品・希望する物品、もしくはそれらに類似する物品の持ち込みが出来るように考える。	安全性などを優先した結果、居室内への私物の持ち込みを制限する傾向があるが、入居者の思いを汲み取り、出来る限り、その思いに寄り添えるようにアイデアを出し合い、思いが詰まった空間づくりを支援していく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。